

第 38 回 日 本 血 液 事 業 学 会 総 会

[報 告]

平成 25 年度 事業報告

平成 25 年度 収支決算

平成 27 年度 事業計画

第 39 回日本血液事業学会総会長の選出

平成 27 年度 収支予算

第 40 回日本血液事業学会総会開催地

日本血液事業学会会長の選出

日本血液事業学会名誉会員の推戴

開 催 日：編集委員会・役員会・評議員会

平成 26 年 10 月 28 日 (火)

会 場：日本赤十字社中四国ブロック血液センター

広島県赤十字血液センター

平成25年度日本血液事業学会事業報告

◎会員数 平成26年3月31日現在

A会員	6,991名
B会員	1名
C会員	59名
合 計	7,051名

◎学会機関紙「血液事業」の発行

第36巻第1号	2013年 5月	7,340部
第36巻第2号	2013年 8月	7,540部
第36巻第3号	2013年11月	7,340部
第36巻第4号	2014年 2月	7,340部
合 計		29,560部

◎第37回日本血液事業学会総会

第37回日本血液事業学会総会概要

総会事務局 日本赤十字社北海道ブロック血液センター

第37回日本血液事業学会総会（総会長：日本赤十字社北海道ブロック血液センター、高本 滋 所長）を北海道地区で担当させて頂くこととなり、平成25年10月21日（月）～23日（水）の3日間、札幌コンベンションセンターを会場とし開催した。今回は、平成25年度全国大学輸血部会議（当番校：北海道大学病院検査・輸血部、清水 力部長）、第20回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム（会長：北海道赤十字血液センター、山本 哲所長）との同時開催であり、多数のご参加を頂いた。

我が国の血液事業については、このところ新しい展開が続いている。平成24年4月1日より、広域事業運営体制がスタートした。また、10月1日には、日赤の血漿分画事業部門と株式会社ベネシスが統合され、一般社団法人日本血液製剤機構（JBPO）が誕生した。一方、平成24年9月には移植法が公布され、10月には京大山中伸弥教授のノーベル賞受賞が発表され、移植医療ならびにiPS細胞を中心とした再生医療が一気に発展する勢いを示している。このような背景の下、血液事業が新規医療の発展に伴い、どのように関わり、どのような役割を果たしてゆくことができるのか、議論を深めることは極めて有意義と考えられる。上記状況を踏まえ、本総会では、「新たな血液事業の展開－広域事業・移植法・再生医療－」をテーマとした。

総会には1,097名（スタッフを除く）、会員交見会には651名、北海道ブロック血液センター見学には186名と全国多数の方々にご参加頂き、無事総会を終了した。

プログラム内容は以下のとおりである。

特別講演は5題、特別講演1「ノーベル化学賞を受賞して」演者：鈴木 章氏（北海道大学名誉教授）、特別講演2「ABO血液型不適合腎移植への挑戦－本当に移植前の抗体除去は必要なのか？」演者：高橋公太氏（新潟大学大学院腎泌尿器病態学教授）、特別講演3「総会長招聘講演 オランダの血漿分画事業」演者：Dr. Paul Strengers（Amsterdam Sanquin役員）、特別講演4「血漿

分画事業の現状と将来—日本と諸外国—」演者：上田英彦氏（一般社団法人日本血液製剤機構理事長）、特別講演5「龍馬と北海道」演者：原子 修氏（札幌大学名誉教授）で行った。

シンポジウムは8題、シンポジウム1「これからの若年層献血の推進（同世代からの働きかけ）」、シンポジウム2「血液事業における今後のMR活動の在り方」、シンポジウム3「再生医療の進歩」、シンポジウム4「広域事業運営の現状と問題点」、シンポジウム5「献血推進・安定供給への取り組み」、シンポジウム6「第20回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム合同開催—採血副作用の原因とその防止対策—」、シンポジウム7「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律・施行後の関係団体の役割と協力体制」、シンポジウム8「献血者の検査サービスと健康管理」を行った。

教育講演は8題、教育講演1「コンピュータシステムの現状と今後の発展性」演者：中平光博氏（日本赤十字社血液事業本部）、教育講演2「採血副作用の対応」演者：真野貴己氏（東京海上日動火災保険株式会社）、教育講演3「NICUにおける輸血療法」演者：長 和俊氏（北海道大学病院周産母子センター）、教育講演4「輸血による鉄過剰症とキレート療法」演者：生田克哉氏（旭川医科大学内科学講座消化器・血液腫瘍内科学分野）、教育講演5「Patient Blood Management」演者：豊嶋崇徳氏（北海道大学大学院医学研究科血液内科）、教育講演6「スキルアップ」演者：松崎浩史氏（日本赤十字社血液事業本部・東京都赤十字血液センター）、教育講演7「細菌不活化・NATスクリーニングの国内外の現状」演者：佐竹正博氏（日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所）、教育講演8「脳死と臓器移植」演者：嶋村 剛氏（北海道大学病院臓器移植医療部）で行った。

ワークショップは1題、ワークショップ1「HBワクチンプログラム」を行った。

今回の総会から全国各ブロック血液センター所長より推薦いただいた合計7名の演者による特別企画「ブロック血液センター所長推薦優秀演題発表会」を行った。

特別セミナーは1題、特別セミナー1「造血幹細胞移植と免疫グロブリン療法」演者：井端 淳氏（北海道大学医学研究科専攻内科学講座）を行った。

共催（ランチョン）セミナーは7題、共催セミナー1「The latest status of pathogen reduction technology in Europe」演者：Dr. Jean-Louis Kerkhoffs (Sanquin Bloedvoorziening)、共催セミナー2「高感度HBsAg検査によりB型肝炎治療はどう変わるか」演者：松本品博氏（信州大学医学部附属病院肝炎診療相談センター）、共催セミナー3「肥満とメタボの関係—あなたは大丈夫？—」演者：浅原哲子氏（京都医療センター臨床研究センター）、共催セミナー4「がんと向き合って」演者：鳥越俊太郎氏（ジャーナリスト）、共催セミナー5「針小棒大E型肝炎」演者：三代俊治氏（東芝病院研究部）、共催セミナー6「輸血業務と診療報酬—現況の理解と今後の展望—」演者：半田 誠氏（慶応大学病院輸血・細胞治療部）、共催セミナー7「アフレーシス療法—誕生、変遷、そしてこれからの展望—」演者：山路 健氏（順天堂大学膠原病内科）を行った。

一般演題は346題（口演130題、ポスター216題）が発表され、例年より100題以上多い報告があった。

企業展示には40社（69区画＋1室＋屋外展示：新型移動採血車と血液輸送車）を出展頂いた。抄録集には盛り込むことのできなかった企業展示等の事柄については、「プログラム集」を別途作成し、参加者に配布した。

総会前日には学会編集委員会、学会役員会、学会評議員会を日本赤十字社北海道ブロック血液センターの施設見学を兼ねて開催した。また、第1日目には血液センター連盟役員会を開催した。第2日目夕刻には札幌ビール園にて会員交見会を開催し、予想以上の大勢のご参加を得た。

平成25年度日本血液事業学会収支決算書

(単位：円)

収 入		支 出	
1. 会費収入	33,168,000	1. 総会費	37,909,405
		2. 役員会費	23,100
2. 補助金	0	3. 評議員会費	0
		4. 編集委員会費	0
3. 購読料収入	448,000	5. 印刷製本費	20,674,409
		6. 職員費	2,447,280
4. 利子収入	1,948	7. 旅 費	246,540
		8. 通信運搬費	2,094,018
5. その他収入	28,768,196	9. 消耗品費	29,050
		10. 印刷費	0
6. 雑収入	11,144	11. 雑 費	0
		12. 租税公課	5,759,200
7. 前年度繰越額	9,460,912		
計	71,858,200	計	69,183,002

収支差引額 2,675,198円
(翌年度へ繰越)

前記決算のとおり相違ありません。

平成26年3月31日

日本血液事業学会

会長 南 陸 彦

前記決算は正確であることを認めます。

平成26年8月8日

日本血液事業学会

会計監事 稲 葉 頌 一

会計監事 浅 井 隆 善

平成27年度日本血液事業学会事業計画

◎会員数

A 会員	7,000 名
B 会員	60 名
合 計	7,060 名

◎学会機関紙「血液事業」の発行

第38巻第1号	2015年	5月	7,500部
第38巻第2号	2015年	8月	7,600部 (抄録集)
第38巻第3号	2015年	11月	7,500部
第38巻第4号	2016年	2月	7,500部
合 計			30,100部 発行

第39回(平成27年度)日本血液事業学会総会長の選出

総会長 かわ河 けい敬 せい世 先生

(日本赤十字社近畿ブロック血液センター 所長)

(規約第10条)

総会の開催に当っては会長が評議員会にはかって総会長を委嘱する。

第39回日本血液事業学会総会(総会長：河 敬世先生 日本赤十字社近畿ブロック血液センター所長)は、2015年(平成27年)10月4日(日)～6日(火)に大阪国際会議場(大阪市)を会場として開催する。

平成27年度日本血液事業学会収支予算書

(単位：円)

収 入		支 出	
1. 会費収入	50,760,000	1. 総会費	29,000,000
		2. 役員会費	20,000
2. 補助金	0	3. 評議員会費	10,000
		4. 編集委員会費	10,000
3. 購読料収入	440,000	5. 印刷製本費	28,595,000
		6. 職員費	2,448,000
4. その他収入	17,500,000	7. 旅 費	300,000
		8. 通信運搬費	1,836,000
5. 雑収入	11,000	9. 消耗品費	32,000
		10. 印刷費	0
		11. 雑 費	0
		12. 租税公課	5,900,000
		13. 予備費	560,000
計	68,711,000	計	68,711,000

第40回(平成28年度)日本血液事業学会総会開催地

日本赤十字社

東海北陸ブロック血液センター管内

第41回(平成29年度)日本血液事業学会総会開催候補地

(予定) 日本赤十字社

九州ブロック血液センター管内

日本血液事業学会会長の選出

高 本 滋 先生

(日本赤十字社北海道ブロック血液センター所長)

(平成26年10月28日評議員会において承認)

日本血液事業学会名誉会員の推戴

南 陸 彦 先生

(第35回日本血液事業学会総会長, 日本血液事業学会会長)

(平成26年10月28日評議員会において承認)

日本血液事業学会総会開催状況

回	開催年月	開催場所	総会長		総会事務局
1	1977(S.52). 7	宮城県(仙台市)	所長	千葉修次郎	宮城県赤十字血液センター
2	1978(S.53). 6	東京都(渋谷区)	所長	大林 静男	日本赤十字社中央血液センター
3	1979(S.54). 7	神奈川県(横浜市)	所長	岩田 昌一	神奈川県赤十字血液センター
4	1980(S.55). 7	兵庫県(神戸市)	所長	今井 英世	兵庫県赤十字血液センター
5	1981(S.56). 7	岡山県(岡山市)	所長	西崎太計志	岡山県赤十字血液センター
6	1982(S.57). 7	静岡県(静岡市)	所長	野口 正輝	静岡県赤十字血液センター
7	1983(S.58). 9	福岡県(福岡市)	所長	吉成 章之	福岡県赤十字血液センター
8	1984(S.59). 9	大阪府(大阪市)	所長	田中 正好	大阪府赤十字血液センター
9	1985(S.60). 9	京都府(京都市)	所長	細井 武光	京都府赤十字血液センター
10	1986(S.61). 9	宮城県(仙台市)	所長	赤石 英	宮城県赤十字血液センター
11	1987(S.62). 9	愛知県(名古屋市)	所長	福田 常男	愛知県赤十字血液センター
12	1988(S.63). 9	広島県(広島市)	所長	宗像 寿子	広島県赤十字血液センター
13	1989(H. 1).10	熊本県(熊本市)	代行	前田 義章	熊本県赤十字血液センター
14	1990(H. 2). 9	福島県(福島市)	所長	渡辺 岩雄	福島県赤十字血液センター
15	1991(H. 3). 9	奈良県(奈良市)	所長	市場 邦通	奈良県赤十字血液センター
16	1992(H. 4). 9	東京都(北区)	所長	天木 一太	東京都赤十字血液センター
17	1993(H. 5). 9	北海道(札幌市)	所長	関口 定美	北海道赤十字血液センター
18	1994(H. 6). 9	石川県(金沢市)	所長	大川 力	石川県赤十字血液センター
19	1995(H. 7). 9	大阪府(大阪市)	北大阪所長	小川 昌昭	大阪府赤十字血液センター
20	1996(H. 8). 3	千葉県(千葉市)	所長	十字 猛夫	日本赤十字社中央血液センター
21	1997(H. 9). 9	宮崎県(宮崎市)	所長	新宮 世三	宮崎県赤十字血液センター
22	1998(H.10). 9	北海道(旭川市)	釧路所長	中澤 英輔	北海道赤十字血液センター
23	1999(H.11). 9	新潟県(新潟市)	所長	小島 健一	新潟県赤十字血液センター
24	2000(H.12). 9	岡山県(倉敷市)	所長	喜多嶋康一	岡山県赤十字血液センター
25	2001(H.13). 9	愛知県(名古屋市)	所長	小澤 和郎	愛知県赤十字血液センター
26	2002(H.14). 9	福岡県(福岡市)	所長	前田 義章	福岡県赤十字血液センター
27	2003(H.15). 9	京都府(京都市)	所長	横山 繁樹	京都府赤十字血液センター
28	2004(H.16). 9	神奈川県(横浜市)	所長	諏訪 城三	神奈川県赤十字血液センター
29	2005(H.17).10	宮城県(仙台市)	所長	船山 完一	宮城県赤十字血液センター
30	2006(H.18).10	北海道(札幌市)	所長	池田 久實	北海道赤十字血液センター
31	2007(H.19).10	香川県(高松市)	所長	内田 立身	香川県赤十字血液センター
32	2008(H.20).10	大阪府(大阪市)	所長	柴田 弘俊	大阪府赤十字血液センター
33	2009(H.21).11	愛知県(名古屋市)	名誉所長	神谷 忠	愛知県赤十字血液センター
34	2010(H.22). 9	福岡県(福岡市)	所長	清川 博之	福岡県赤十字血液センター
35	2011(H.23).10	埼玉県(さいたま市)	所長	南 陸彦	埼玉県赤十字血液センター
36	2012(H.24).10	宮城県(仙台市)	所長	伊藤 孝	宮城県赤十字血液センター
37	2013(H.25).10	北海道(札幌市)	所長	高本 滋	北海道ブロック血液センター
38	2014(H.26).10	広島県(広島市)	所長	土肥 博雄	中四国ブロック血液センター
39	2015(H.27).10	大阪府(大阪市)	所長	河 敬世	近畿ブロック血液センター